

平成17年3月19日

電力部会 事務局長コメント

電力部会2005年春季生活闘争は、2月22日の一斉要求以降、各単組において精力的に交渉を重ね粘り強く追い上げをはかった結果、3月18日から19日にかけて全単組が妥結に至った。

今次交渉において組合は組合員の経営課題への努力と成果、自由化進展の中での意欲・活力の維持、近年の解決状況等あらゆる面をとりあげ要求趣旨に沿った経営の前向きな対応を強く求めた。それに対し経営側は組合員の努力に報いたいとはしながらも、競争激化の中での価格競争力確保の観点からなお一層の効率化が至上命題であり、賞与水準についても適正化が必要との姿勢を一切崩さず労使の主張は平行線を辿るところとなった。

交渉は難航を極めるところとなったが、3月15日に異例ともいえる第4回交渉推進委員会で最終局面の方針を、さらに18日には第5回交渉推進委員会（持ち回り）で最終局面の進め方を確認、各単組がそれらを背景に精一杯の交渉を行い妥結に至ったものである。

内容については、水準の適正化を強硬に主張する経営側を精一杯押し返したものであり、最終方針を踏まえ粘り強く交渉した結果と受け止める。さらに、極めて厳しい情勢のもと、それぞれの状況を踏まえ最大限の交渉を展開された各単組の努力に深く敬意を表する。

なお、今次交渉のまとめについては、従来と異なる展開となったことも含め組織的な手続きを経て明らかにするとともに、今後の統一交渉のあり方について、今日までの経緯、取り巻く環境変化、近年の状況等を踏まえ論議を深めたいと考える。

最後になるが、各単組の尽力に敬意を表するとともに、電工部会、検集部会、電保部会はじめ電力総連加盟組合は鋭意交渉を進めており、早期に有利解決が図れるよう、引き続いてのご支援をお願いする。

以 上